

会議録

会議の名称	令和2年度 第3回登米市下水道事業運営審議会
開催日時	令和3年1月29日(金) 14時00分開会 15時46分閉会
開催場所	登米庁舎 2階 庁議室
座長(議長)	会長 高橋 修
出席者(理事)の氏名	後藤悦子委員、佐藤繁人委員、佐藤雅子委員、佐々木絹子委員、菅原昭委員、佐藤豊子委員、大森敏雄委員 以上7名
欠席者(理事)の氏名	泉朋行委員、村上とも子委員 以上2名
事務局職員職氏名	上下水道部 部長 大柳 晃 次長 千葉 智浩 (経営総務課) 細川課長、佐々木課長補佐、鈴木(良)課長補佐、 伊藤課長補佐兼係長、津藤課長補佐兼係長 (下水道施設課) 佐々木課長、小泉課長補佐、佐々木課長補佐兼係長 佐々木係長 以上 11名
議 題	会 議 (1) 会議録署名員の選任 (2) 説明 ①令和3年度登米市下水道事業会計予算について ②登米市下水道事業の主要事業等について その他
会議結果	別紙記録のとおり
会議経過	別紙記録のとおり
会議資料	資料1 令和3年度登米市下水道事業会計予算書 資料2 令和3年度登米市下水道事業会計当初予算の概要

別紙

発言者	発言要旨
【1 開会】	
事務局	会議資料の確認後、開会を宣言。
【2 挨拶】	
会長	<p>皆さん今日のご苦勞様でございます。今年初めてお会いするものですから、明けましておめでとうございます、今年もよろしくお願ひ申し上げますといたひたいところですが、今日で審議会も終わりでございますので、またお会いする機会を（聞き取り不可）。よろしくお願ひいたします。私も 27 年頃からこの審議会に参加させて頂きまして、皆さんのご協力をもちまして無事終了させて頂きまひすので、ありがとうございます。今日はこれから企業会計になりまして初めての審議会でございますので、色々ご意見もたくさんあると思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>ご挨拶に代えさせて頂きまひす。よろしくお願ひいたします。</p>
【3 会議】	
会長	<p>それでは早速始めさせていただきます。本日の会議は委員 10 名中 9 名の方の出席でございますので、過半数を満たしておりますので、審議会条例第 4 条第 2 項の規定により、会議が成立することを報告いたします。</p> <p>次に本日の会議の議事録署名委員の選任を行います。私の方から指名させていただきます。佐々木絹子委員さんよろしくお願ひいたします。それから佐藤豊子委員さんよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>本日の下水道事業運営審議会は、登米市審議会等の会議の公開に関する指針第 4 条の規定に基づき傍聴席を設け、第 7 条の規定により、公開した会議の会議録をホームページに掲載することにより、公表いたしますのでよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>それでは報告に入らせていただきます。議事に入ります。令和 3 年度登米市下水道事業会計予算について、事務局から説明をお願ひ申し上げます。</p>
事務局	(配布資料 1 に基づき説明を行う)
会長 委員 事務局	<p>はい、ありがとうございます。只今の予算書について、何か皆さんからご質問があれば承りたいと思ひます。</p> <p>38 ページの損益計算書の推移についてですが、例えばこれは今剰余金がマイナス計上されておりますが、何年後かにはプラスになるのか、どういう計画になっているのかについてお願ひします。</p> <p>現在収支の部分につきましては、一般会計から多大な繰入をしております。本来、公営企業というのは繰入の基準がございます、基準内の繰入と基準内を超えた繰入があるというようなところで、基準を超えて繰入していただひている状況となっております。これから経営を改善していきながら、要は料金等についても考えていくようなところがございますが、そこで例えば仮に料金が上がったという収益の状況になった時に、本来であれば累積欠損金を減らしていくというところですが、基準を超えて一般会計から繰入を受けているというところもござひますので、まずは改善していった分、一般会計からの繰入を減らすというところには最初は充てることになるかと思ひます。累積欠損金についてはなかなか減らないというところですが、ただ、今ある累積欠損金の殆どは開始貸借対照表を作った時のマイナス分ということで 2 億円くらいと、退職給付引当金で 1 億 5 千万円くらいありまして、単年度で見ると 1 百万円くらいのマイナスという状況で、繰入をしているという状況でございます。単年度の収支の部分については赤字が出ないように繰入を行っておりますので、累積欠損金が今後どんどん膨らんでくのかというところ、大体横ばいで推移していくもの第一と思ひます。</p>

	<p>このまま累積欠損金が横ばいで行って、まず一般会計から基準を超えて繰入しているものを減らして、その後にこれが減っていくということなので、実際に欠損金が減っていくのは、経営戦略を策定中のごさいます、収支計画を作っているところなので何年後とは言えないのですが、基準外繰入を無くすのに10年くらいは掛かるのではないかと考えてございますので、10年くらい過ぎて累積欠損金も減っていくというイメージをしております。</p>
会長	はい、ありがとうございます。
事務局	親会社から余分にお金をもらってギリギリ経営しているような状態ですので、本来入るお金でないものを減らすということが先になります。
会長	今事務局が言われた使用料に跳ね返ってくるということですが、その辺のことはこれから審議されるようですからよく検討して頂きたいなと思います。ありがとうございました。
委員	概要7ページの下水道使用料等あり方検討委員会について、この(2)の予算額8,184千円は人件費だけなんですか？
事務局	概ねは委託業務で、コンサルにデータを計算させたり、資料の作成というもので、人件費がかなりの部分を占めています。
委員	これは令和4年の9月まで毎月やるものですか？それとも年に何回かというものなんですか？
事務局	実際毎月出来ればいいのですが、一定程度コンサルが資料を作りながら市でも方針を定めていくような恰好になりますので、4～5回くらいではないかというところでございます。
委員	コンサルに委託するというのであれば妥当な金額かと思えますね。人件費的な部分がかごまで入っているのか疑問に思いましたので質問をしました。
委員	5ページの退職給付引当金156,746千円というのは、下水道事業会計職員20名分の退職金と考えてよろしいでしょうか？ざっくり見ますと一人平均7,000千円にしかならないので充足率が100%になっていないのではないですか？
事務局	今いる職員がここですぐ辞めたらという計算ですので、例えば20代の職員などについては、退職金といっても殆ど出ないという状況になっております。逆に定年近くの職員だと満額出るとということで、平均した額を見るとそんなに大きくないんですけども、計算上は妥当な額を計上しております。一般会計では引当金を計上する必要が無かったため、会計を移行する際に引当金を令和2年度に一括で計上しているということでございます。
委員	一般的には退職給付引当金はすぐに発生するものではないけれども、基本的には所属する職員が一斉に退職したと仮定してそれに充足する金額を含まなくてはならないという基本があるんですがそれで大丈夫だということですね。
会長	はい、ありがとうございます。他に何かありますか？
委員	11ページのキャッシュフロー計算書について質問させていただきます。1番下から3行に資金増加額・期首残高・期末残高と載っていますが、令和3年度の予定キャッシュフローの中で、単年度においては61,180千円のマイナスですが、資金の期首残高、ようは前年度繰越のようなものでしょうけどそれが463,904千円で、差引402,724千円が次年度に繰越となっていますけど、前回の運営審議会の際に頂いた令和2年度の予定キャッシュフロー計算書を見ますと、この時は単年度では230,400千円資金が増加する計算となっています。この時の期首の残高が184,094千円で、414,494千円を翌年度に繰り越すこととなっているのですが、この中身を見た際に令和2年度の資金増加額が230,400千円、令和3年度の資金増加額が△61,180千円ということで、前年度の繰越が463,904千円とあるため、まだ資金的には余裕があるように、概ね良好という形になってはいますが、これが単年度単年度で見た場合に金額的に大きな変動が今後出てくるのかどうか、この402,274千円というキャッシュがいつまで持つのか、今質

事務局	<p>問があった通り企業会計になったことで今まで目に見えなかったものが減価償却しかり退職給付引当金しかり色々出てきます。そういったものも今後キャッシュフローに出てきますから、そうした場合において年度によって大きな変動があるのかどうか、その辺を長短期的に見て説明をいただければと思います。</p>
事務局	<p>本来は独立した企業会計を営んで、これが増減するというのは正しい姿なのですが、下水道事業については市長部局の特別会計から独立して企業会計になった際にあまり大きな資金を持ってきていないということもあり、期末期首でいうと400,000千円ほどですが、実際途中でもっと減ったりするということもありまして、今あまり余裕のある会計ではございません。一般会計からの繰入の仕方なのですが、単年度の予算の現金収支ベースでプラスマイナス0になるように貰っております。ただ、予算の執行上、年度の境で収入と支出が予算とイコールではございませんので、そこでのプラスマイナスは出るんですけども、予算上から言うと、プラスマイナス0になるように貰ってまして、現金については減らないという予算組みになっております。</p>
委員	<p>当面予算執行をした時の不用額や収入の増加によって現金が少しずつ増えていくような仕組みになっているんですが、繰入の仕組みが今後も長期的に同じなのかということについてははっきりとしたことは言えないのですが、今後も同じ仕組みであれば現金については大体横ばいで推移する予定となっております。現金ベースで不足する分を一般会計から繰入しているものです。企業会計でそういった考えはどうなんだという部分もあるんですけども、資金繰りの関係で、引当金や減価償却費を除いて現金ベースで足りないお金を一般会計からもらうような仕組みになっております。なので、現金が足りなくなるということはありませんが、例えば経営努力をして、委託費などの経費を減らしても現金ベースでプラスマイナス0になるようにしているの、繰入金が減るとことで収益が増えるわけではないというような仕組みで当面の間やっていくこととなっております。</p>
委員	<p>自己資本ではなく他人資本を導入して上手くキャッシュフローを回しているということですね。</p>
委員 事務局	<p>一般企業のキャッシュフローとは性格が異なるんですね。 水道事業のキャッシュフローではこの繰入金はある程度固定で、実際の営業資本で動くんですけども、下水道事業の場合は現金が不足する分を一般会計から繰り入れているので、キャッシュフローが通常の健全な状態ではなく企業的でない形になっています。今後経営が改善されて、独立して歩いていくようにならないとその状態にはならないかと思えます。</p>
委員	<p>減価償却を見ますと約24億円となっておりますよね、それに相対するんでしょうけど建設改良費が同じような感じで29億7千万円ほどとなっておりますけれども、懸念されることは減価償却で、長寿命化の観点からした場合にこれから新規設備投資が見込めない中で長寿命化ということであれば、当然今後耐用年数に応じて減価償却も今22億円と大きいですけどこれも段々先細りしていきますよね。要償却資産が減れば当然減価償却費も減るので長寿命化の観点からすれば、キャッシュフロー的に見た場合は厳しいのかなと感じます。</p>
委員	<p>あと支払利息が387,971千円となっていて令和2年度は429,250千円で、4千万円ほど支払利息が改善されておりますが、この辺も金利動向がどうなのかは存じませんが、ある程度支払利息の改善に向けた企業努力というものも必要になるのかなと感じております。</p>
事務局	<p>企業債の残高は約270億円ありまして、水道だと115億円ほどです。下水道はお金の掛かるものということもあり、負債が大きくその利子負担もあるということで、利息は償還していくことでしか減らしようがないもので、経営改善といってもその部分は減らせないと。あと維持管理経費の部分について、全体から見た割合はそんなに大きくないのかもしれないけど、そこでどれだけ頑張れるかというのが一つだと</p>

	<p>思っています。あとは一般会計から繰入で貰うのか使用料で貰うのかというところで、使用料をどのような水準で考えていくかというところですか。</p> <p>企業債については最近借入を行っているものについては利率が低いですが、国が許可した借換をすると安くなるんですけども、通常時に借換を行うと補償金が発生して安くない仕組みになっております。高利なものの借換を認めた制度がある場合にはそれを利用しています。新しく借り入れたものについては利息が低くなっているんですけども、利息負担については今の計画の中でやっていくしかないということです。</p>
委員	<p>実際今の金利というのはいくらくらいですか？</p>
事務局	<p>今年借りているものについては0.6%ほどです。</p>
委員	<p>市からの繰入なんですけど、国から交付税で来ている分もありますよね？それ以上に繰入を貰っているのではないかなと思うんですけど、交付税プラスいくらくらいで繰入をいただいているんでしょうか。</p>
事務局	<p>今20億円程の繰入金を貰っております。それに対して交付税が11億円程です。半分くらいは交付税が来ているというところですか。20億円のうち12億円程が繰出基準内で、その中に国から交付税が来て11億円程となっております。基準外の繰出しが7億円程で使用料の収入が7億円程ですので、使用料と同じくらい基準外で一般会計から繰入を貰っているという状況です。</p>
委員	<p>22ページの減価償却の償却方法ですが、下水道事業については全て定額法という方法で償却していますが、普通であれば車輛など消耗の激しいものは定率法を採用した方が後年度に持っていかなくて済むので、年度によって計算方法は変えられないものですが、下水道事業会計そのものが全ての資産について定額法で良いものかどうかという点についてお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>確認して回答したいと思います。</p>
委員	<p>定額法でなくてはならないという訳ではないが、検討しないで全て定額法で画一的な取り組みしかされていないので、本当に経営の事を考えてそれに見合った償却方法を選考しているのかなと疑問に思います。本来は建築物とか耐用年数が4~50年のものについては定額法で良いけれども、耐用年数が少なくて償却が速く進むものについては定率法の方が後年度に財源を持たなくて済むという事です。これから経営基盤を強化するんだと言いながら計画では強化する方向に行っていないということ事を言いたいです。</p>
事務局	<p>その辺も含めて経営戦略を策定していく中で検討していきたいなと思います。</p>
委員	<p>役所的な考え方なんですよね、本来ならば企業というのはいかに安くするかというのを考えるんですけども定額法で全て押し切ってしまうというのはおかしいと思います。</p>
委員	<p>先ほどの説明で前回の議事録にも載っていましたが、今後の上下水道一体としての審議員の選考について現在の水道+下水道で20人でなく12人にしたいという事で、上水道に詳しい人と下水道に詳しい人がいた中で、この会議録にも出ていましたが、大口使用者と言われる消費者代表の方も入れる、それから女性の比率もしっかり発行してほしいといういろんな考え方があるので、結果としてこうしましたではなくて構成員12名としたいがその12名のうち、大口消費者2名、それから女性参画で何名とか、9町域あるから一人ずつ入るとか、基本的な考え方の提案があってほしいなと思います。まだ発表できるものはないでしょうか。</p>
事務局	<p>決定ではなくこういう中身で検討していますという形でお話ししたいと思います。今想定している12名についてですが、構成としては学識経験者として上水道下水道2名を考えております。大口需要家としてスーパーや福祉法人、工場など水をいっぱい使う人の中から2名、市内の農業・工業・商業各種団体から4名、あと公募を4名ということで12名の委員構成で検討しています。女性については一定の人数の考え方は</p>

委員 会長	あるんですが、公募で必ず女性を二人にするなど規定してはいません。あと公募については地域バランスも見ながら検討したいと思います。 了解しました。 それでは 10 分間休憩とさせていただきます。
	(10 分間休憩)
会長	皆さんお揃いの方ですので始めさせていただいてよろしいでしょうか。 それでは議事の②「登米市下水道事業の主要事業等について」を議題としたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。
	(配布資料 2 に基づき説明を行う)
会長	はい、ありがとうございました。 私からよろしいでしょうか。浄化槽の更新工事が 2 基となっていますが年数的にそんなに経過していないと思うのですがどの程度なんでしょうか？
事務局	更新の 2 基は具体的な場所を想定しているわけではなく、どうしても資産の台帳での取り扱いになるものは修繕という 3 条の予算ではなく 4 条予算に計上するものとなっていることから、更新の必要があればこの中からという予算です。ただ、新しいものが多いわけですが、寄付頂いているものもございまして、過去の話になりますが地震等で損傷を受けて取り換えざるを得なかったという 10 年前の事例もありますので、そういったものもあるというのを想定しながら予算組みをしたものでございます。
会長	はい、ありがとうございます。 皆さんから何かありますか？
委員	今年 3 月で震災から 10 年になりますが、下水道の関係は 100%終わっているんでしょうか。
事務局	事業化したものについては 100%終わっております。ただ、どうしても損傷なり大きい小さい全部含めて不具合が発生したものを当時全て発見出来たわけではないという事実も正直あります。なので、最近になって流れが滞っているという連絡等を頂いて現地調査した結果、最近壊れたものでないような箇所も今年 1 件ありました。ただ、大きな問題になるような損傷ではありませんでした。そういう事もありますので、本当に 100%かと言われると、事業化したものについては 100%という回答になります。
委員 事務局	これからの分についてはこっちの会計になるんでしょうね。 そうですね、整備は課の考え方としては現在までの進捗、それから残りの面積等から判断して、令和 5 年度を完了目標としております。
会長	はい、ありがとうございます。 何か皆さんからありませんか。
委員	5 番の佐沼環境浄化センターについて、3 工事で 2 億 920 万円ということですが単体だといくらになりますか？
事務局	予算の概要の 6 ページをご覧ください。債務負担ということで 3 カ年の総額として 572,800 千円。令和 3 年度につきましては 106,800 千円を予定しております。令和 4 年度は 170,450 千円、最終年度は 295,550 千円の予定です。最初の 1 期 2 期については (不明) の工程が多くなりますので、それを分散させていくということで、最終年度は現地の方に反映させていくようなイメージを持っておりまして、こういう予算組みになっております。
委員 事務局	なんで安いのかなと思っておりました。 トータルとすれば、5 つある処理系統のうちの 1 つを機械設備・電気設備共に更新・改修するようなことで考えておりますので、それなりの金額になります。
委員	最終年度に負担が掛かるような形にしているんですね。 1 番目の工事は分かるんだけど、規模的にはどのくらいなんでしょうか。
事務局	規模につきましては、予算の概要の最終 12 ページの大きな図面ですが、管渠につき

<p>委員 会長</p>	<p>ましては凡そ予定しております延長として、中田地区については 1,200m 程度、迫町平柳地区については 300m 程、それから南方雷地区、石越南郷地区についてはそれぞれ 100m 程を予定しております。</p> <p>分かりました。</p> <p>それでは次に移らせていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>その他で皆さんから何かお話しがあればこの機会にどうぞ。</p>
<p>【4 その他】</p>	
<p>委員</p> <p>会長 委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>使用料をという話になると、やっぱり家計を思うところがあります。</p> <p>この間知り合いと話しをしていて、リフォームを考えていて、下水道に繋ごうとすると門口までは来ているけど工事費を考えると悩ましいという声があったんですね。収益を上げるためには下水道に入ってもらいたい、それから水質改善の事も考えると下水道を使っただききたいというところで、下水道の審議員をしているので出来れば川のためには下水道に繋いでほしいという話はしたんですけど、汲み取りをする場合と下水道に繋いだ後のコストはどうなっているのかなとふと気になりまして、やはり汲み取りの方が安いとなれば、下水道が門口まで来てもそこに繋ぐ工事費を考えるとどうなのかなと気になりました。</p> <p>啓蒙不足なんですよ。</p> <p>私なんかは家を建てる時にほぼ強制的にというか繋がっているのもそのままという形で浄化槽も設置しないで済んだのすごく助かったんですが、やはり以前からそこにお住まいのお家では下水道が来ても門口が長い、何十mも掘らなきゃいけないとなると躊躇するんだなというところです。</p> <p>生のご意見ありがとうございました。まったくその通りだと思います。お金だけ比較をすれば多分汲み取りの方が安いのかと思います。ただ生活環境だったり、この登米市全体の自然環境を守っていくという社会的コストを考えた時は、当然接続をしていただくという事で、何百億の資産を登米市は持って、これだけの資本投下をしているという形です。ただ、接続率は8割程度で、2割の方がなかなか接続していただけていない、それはお金の都合もあるかもしれませんが、家計のライフサイクルも例えば子供さんが戻ってこなくて老夫婦のこのまま（不明）、あるいは息子さんが嫁を貰うから繋ぐかなと、そういうタイミングもあるようなんです。ただ市としては、そういう奨励策として、一定期間ではありますが接続に掛かる費用の一部を助成したり、お金を借りる時の利子負担だったりそういった奨励措置を続けてはいますが、なかなか周知不足あるいは説得力不足もあるんだろうと思っています。ですので、下水道事業の実態というものを委員さんが PR をされたように、我々もしっかり市民の皆さんに届けて内容を理解して接続をしていただくように、そして皆で使ってもらうことによって、例えば料金の改定だってコストを下げる事が出来るわけです。そんな登米市の生活環境を作っていければと思っておりますので、今後とも一つよろしくお願いたします。</p> <p>一つよろしいでしょうか。企業努力をされているようですが初めて委員になった時に、石越では浄化槽になっているのが 50%で一番登米市でも低い方だったので、私は弁当を配達して歩いているんですけど、高齢者で一人暮らしだと皆汲み取り式で殆ど無いです。地域性かなとも思ったんですけど市の PR 不足ではないかという話もしましたが、やっぱり地域性があるのかなと改めて感じます。それからうちは県道沿いなんですけど、門口が長いんです。たしか震災後に補助金がありましたよね？その時に間に合わなくて後にお金を掛けて繋いだんですけど、やっぱり出来る人はやったほうがいいというのは感じました。そこにうちでは畜産と農作業で稲作もやっているの、それに使う水も水道を使っているの、すごく大事だというのは分かるんです。でも、掛かる金額というのはすごく大きな金額なので、春なんかだと八丁くらい作るの目が飛び出るくらい高くなるので、いろんな助成とかがあっても何とかやっている状態です。</p>

事務局	<p>畜産の方では半分は井戸水を使うようにして、なるべく水道を使わないようにしたりしていますが、家の中で使う飲み水なんかは水道を使っているの、それに関しては何とも言えないので、やっぱり地域性があるのかなと思います。元々井戸水を使っていて、だいが前の地震で井戸水が使えなくなった状態なので今は牛にしか使っていません。昔はどこの家でも井戸水を使っていたと思うんですけど、やっぱり健康を考えると水道水の方がいいと思うんです。ただ私は下水道に関して石越でもう少し広めてもらえたらいいのかなと思います。上水道と下水道が一緒になったという事で、少しでも私たちにメリットがあればいいのかなと考えております。</p>
事務局	<p>上下水道部一つになったという事には大きく2つの意味があります。上水道と下水道一つになって便利になったと言われるような組織になりたいというのが一点目です。二点目は今日委員さんからいろいろ問題を指摘されました。まさにこの企業会計に移行することで、問題が見えてきたんだと思います。ですからいろんなことを言われる、その言われることが非常に大事なんだと思います。それを、改善のための処方箋を書いて、経営改善をして出来るだけ皆さんが納得いただけるような料金で、この事業を続けることが我々の目的だと思っておりますので、気づいたことはいろいろご指摘いただきたいですし、それを情報公開することでいろんなことが出てくるんだと思います。それを恐れずにしっかりと説明をしながら進めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>先ほどの話の続きなんですが、現実的には登米市は昨日今日出来た町じゃない町が9つ合わさったので、やはり汲み取り便所というのが基本であったわけですね。結果的には設計そのものが鰻の寝床なんて言われる宅地分けになっているところが結構あるんですよ。お宅的には多分近年に買ったんでしょから最初から本管すぐ近くに設計されているので、予算がどうのこうの言う以前に水洗になっていたということになるんでしょうけど、普通の家というのは奥まったところにあるわけです。そうなった時に本管から延長のパイプがどこまで続くかによって掘削が何mになるかと考えていくと、やはり結構大きな金額になってしまうのではないかと思います。登米は分からないけど東和町、津山町辺りだと本管まで持っていくというより、結果的に浄化槽という考え方になったりして、いくら市が補助金をどうのこうの言ったところで予算的には安くはないと思います。</p>
委員	<p>あとは高齢化社会といったところで、年寄りが後何年生きるかと考えた時に、息子や娘が帰ってこないとする水水洗化しないこのままの方がいいんじゃないかという考え方をするのもごく当たり前じゃないかと思います。ですから、やはり100%の水水洗化というのはなかなか難しいという面もあると思うし、あとは企業努力じゃなくて各自努力で予算を作ってやっていくという方法しかないのではないかと思いますね。</p>
委員	<p>門口20~30mあると言われるとそうだよなと思います。だからしてくださいという話ではなくて、家族構成とかもあるでしょうし、リフォームの時期ってそんなに頻繁にないです。ただ、補助制度があるという情報が届いていないということもあるのかなと思います。補助があるなら検討する余地があるかなという意見も出てくると思うんです。</p>
委員	<p>決して情報が無いわけでもないし、よく見ればちゃんと載っているんだけどその辺が、浄化槽に関しても補助金が全額ではなくて自己負担というのがありますけどね。</p>
会長	<p>あとはよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>それでは審議を取りたいと思います。会議のスムーズな運営にご協力いただきましてありがとうございました。</p>
事務局	<p>高橋会長ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、会長職務代理者の菅原委員さんよりよろしくお願いいたします。</p>

【5 閉会】	
会長職務 代理者	<p>コロナ禍の中で皆さんにご参加いただきましてありがとうございました。毎回積極的に建設的な意見を出していただき議論が熱を帯びるような状態で、活性化のためには非常に良いのではないかなと思います。やはり統合することによって市民サービスが低下しないように、これからも私たち審議員、そして行政区の皆さんにおかれましても一体となって（聞き取り不可）、引き続きよろしくお願ひいたします。</p> <p>これをもちまして本日の審議会を終了したいと思います。お疲れさまでした。</p>
事務局 大柳部長	<p>続きまして、上下水道部長の大柳よりご挨拶をさせていただきます。</p> <p>長時間にわたりましてありがとうございました。前回の会議終了時に次回はマスク無しで出来ればという話をしたんですが、衝立まで立っているという状況でございまして、もう少しの辛抱だろうなというようなことで今後ともお気をつけていただければと思っております。委員の皆さんには令和元年から本年までの2年間という、まさに変化の大きい時期でありました。先程話のありました組織の統合だったり、企業会計への移行だったりという非常に大きな時期に、この水処理の安定性あるいは経営の安定性ということに心を砕いていただきまして、色々ご意見をいただいたという部分については、この事業を前に進める大きな原動力になったということで、心より御礼を申し上げたいと思います。来年度からはまた重要な事業の取りまとめあるいは着手が予定されておりますので、先程お話があったような意見に耳をしっかりと傾けながら、将来的に市民の皆さんに納得いただけるような負担の中で、この事業が安定的に運営できるように努めて参りたいと思っておりますので、今後とも皆さんのご意見ご協力あるいはご指導方よろしくお願ひいたします。本当に2年間ありがとうございました。</p>
事務局	<p>以上をもちまして、第3回登米市下水道事業運営審議会を閉会させていただきます。本日は長時間にわたり大変ありがとうございました。</p>

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____